

ホーム名:グループホーム					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的な人権の尊重、健全育成・援護の実施、社会的自立の助長、地域福祉への貢献。「第二の我が家」をホームの理念にあげている。	理念は入職時に丁寧に説明し、日々のケアの中でも確認し合っている。生活の匂いを感じながらゆったりと過ごしてもらい、ホームが理念とする「第二の我が家」になれるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域内の様々な情報を提供して頂いている。また、運営推進会議で地域のイベントや取り組み、課題等について情報交換している。	コロナ前は、地域の祭りやイベント、併設事業所で定期的開催される認知症カフェに参加していた。下校する小学生の見守りをスタッフと一緒にいき、日々の散歩や買い物で馴染みとなるなど、地域に溶け込んだ生活となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げてきた認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護の相談、希望者に対して認知症の介護方法・施設選択の助言等を行う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現サービスの実績について報告し、ご家族や第三者からの助言を頂き、更なるサービスの向上に努める。	運営推進会議は家族代表として後見人、地域包括支援センター職員、地域代表として建物のオーナー等が参加して2か月毎に開催していたが、現在は縮小開催となっている。議事録も適正に整備され、職員間で共有されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	社会福祉協議会をはじめ、区役所や大阪市の介護保険課等とも連絡をとりやすい関係を構築できるように努めている。	市担当者とは、事故報告や制度等について訪問したり電話で相談している。市から感染症や防災の注意喚起が届いた際は職員間で情報を共有し、研修案内には職員間で回覧し必要に応じて参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会・身体拘束委員会を実施し身体拘束について学ぶ機会があり、チームで不適切ケアがあれば、言い合えるよう心掛けている。また、スタッフと個別面談を随時うけケアの相談や悩み事など聞き取りなども行う。	研修を積極的に実施し、権利擁護への学びを深め、身体拘束ゼロを保っている。施設の扉は常に解放されている。身体拘束委員会も適切に実施され、議事録も整えられている。	3ヶ月に1度の身体拘束委員会のうち、運営推進会議と重なる月の委員会は、運営推進会議と一緒に開催し、包括職員等から助言をもらってはどうか。会議にもメリハリが付き、職員の意識づけにもなると思われる。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員がいつでも閲覧できるよう、各フロアに関係資料を配布している。また、勉強会の定期テーマとして組み込み、新職員にとっては学習・在職員にとっては復習ができるようプログラムしている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>各種公的機関等から資料を収集して学習の機会を設け、必要に応じてご家族への情報提供を行っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明と話し合いを実施し、契約後も不安・疑問点には速やかに対応を努めている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族からの要望や相談があれば、直ぐに内容をお聞きし検討、運営者への報告し解決できるよう努めている。</p>	<p>コロナ禍でも限定的ではあるが、面会を許可している。家族と話をする機会を積極的に設け、要望や意見を積極的に取り入れてケアに反映させるよう心掛けている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員用意見箱を勤怠打刻場所に設置し定期的に意見用紙の回収している。また、管理者会議において、現場から出た意見について話し合っている。</p>	<p>日々の業務の中で、お互いに意見が言い合える関係が構築されている。業務の効率化を図りつつサービスが低下しないようお互いが確認し、意見を出し合っている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の能力に合わせた業務内容も変更を実施。職員からの提案があれば、できるかぎり取り入れるよう支援している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が学習したいテーマを出し合い、それに沿った内容で勉強会を開催すること(コロナ感染予防対策為、資料配布し、分からないところは管理者・責任者が指導している)質問ができる環境づくりに努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナ感染予防対策の為、職員懇親行事や合同レクリエーション活動は中止している。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用に際し、見学時に十分な説明や体験利用の機会を設け、面接は自宅や病院に職員が訪問し、本人がリラックスして話ができるよう配慮している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用に至るまでに、ご家族と面接や電話でのやりとりを小まめに行い、ご質問や相談に速やかに対応を行うことにより、信頼関係の構築に努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた際は、まずは現状や支援内容を把握し、他の事業所から情報収集し、必要に応じて様々な介護サービスの説明を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として尊重し、様々なことを学びながら日々の暮らし・食事・レクリエーション等を共に楽しむよう心かけている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族には常に状況説明し、困難な状況時には特に利用者を中心にスタッフ・ご家族と協力しながら支援できるよう努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ感染予防対策の為、地域のイベントは中止・外出や面会も禁止だったため、思うように実行出来ていません。</p>	<p>地域に密着した事業所として、利用者の友人や知人等、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。</p> <p>コロナ禍でも細心の注意を払って面会を実施し、関係継続を支援している。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員が架け橋となり、利用者同士の円滑なコミュニケーションを図れるように努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>必要に応じて、介護サービス等についての相談・助言を受付けられるよう努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が意思疎通困難な場合は、ご家族に意向や過去の生活歴等を伺い、本人本位の生活が送れるように支援している。	入居前には必ず自宅に出向き、今まで過ごしていた部屋を見て、本人や家族から生活歴や現状等を聞くと共にホームでの生活の希望を聞いている。また病院や施設等関係者からも情報を得ている。入居後は夜間や入浴時など、1対1でゆっくり過ごす中での会話や表情、しぐさなどを記録に残し、カンファレンスで話し合い、思いの把握に繋げている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	面接時に、利用までの経緯や生活歴・大事にされている物はなにか等をしっかりと情報収集を行うように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄のサインを見逃さないようにしている。また、本人の状況の変化にすぐに気づき、心身状態に変化が見られた際は主治医に相談し報告・指示を仰ぎ、ご家族に報告する。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の毎日チェック表を実施。カンファレンスや毎日の申し送り時に気になったことの報告・話し合いをする。また、定期的なフロア会議でケアの統一化に努めている。外部の医療機関とも連携をとり相談をしている。	職員が利用者や家族から知り得た情報は、計画作成担当者とも情報共有を図り、ケアプランに反映させるよう努めている。ケアプランを見ると、誰のプランかわかるほど、アセスメントがしっかりできている。実際も、利用者1人1人の状態に寄り添った、プラン以上のケアができている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアプランのチェック表を作成し一か月ごとに評価している。チェック表はその日の出勤者が行うので、ケアプランの確認ができ、特記の欄には今ではなかった事などを記入してしてもらい、情報共有をしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を把握し、出来るかぎり柔軟な対応を出来るよう、努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残存能力やニーズをしっかりと把握し、多様なサービスを組み合わせながら支援できるように努めている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう、本人やご家族へのアドバイスを行い、状態によっては受診の付き添い等も行っている。	入居の際にかかりつけ医について家族と相談し、希望に沿った受診ができるよう支援している。家族が同行できない時には職員が受診支援を行っている。協力医は月2回の往診があり、緊急時等24時間対応可能で、院内看護師が週に一度訪問して健康管理にあたっている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>提携している医療機関からの一週間に一度の健康管理で、入居の方の相談やアドバイスを頂き、必要に応じて主治医に連絡して指示を仰いでいます。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療機関と連絡を密にとり、情報交換を行い状況確認・面談に伺う等の対応を行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>段階的にご家族に報告・意向の確認を行いながら、本人にとって一番よい環境へ以降できるように小まめにご家族や本人の意向を聞き取りするように努めている。グループホームで出来ること・出来ない事を医療機関と共に説明しチームで支援できるように取り組んでいる。</p>	<p>入居時に「重度化した場合における看取り指針」を示し同意を得ている。重度化した際は医師から家族に伝え、希望により職員も交えて最善の方法を検討している。医師や看護師の協力のもと、職員は看取り研修やカンファレンスを行いながらスキルアップに努めている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアル作成し、いつでも閲覧できるように努めている。その他の初期対応については定期勉強会実施。急変時が行った後は振り返りを行いスタッフで情報共有している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>運営推進会議で有事の際における協力を呼びかけており、火災報知器等の設備面や非常時の対応について、利用者参加型の訓練を実施している。</p>	<p>年に2回消防署立ち会いのもと、昼夜を想定した避難訓練を利用者と一緒に行っており、通報や初期消火についても指導を受けている。災害に備えて水や食料、コンロ等を備蓄している。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>認知症の進行の度合いや理解度に個人差があるが、各人の状態に応じた対応を行い、人格や自尊心を尊重出来るよ努めている。</p>	<p>定期的に法人やホーム内で接遇研修を行っている。</p> <p>利用者への言葉かけは、人生の先輩として敬い馴れ馴れしくならないよう努めている。不適切な対応が見られた際には管理者が注意したり、職員間で注意し合っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員との信頼関係の構築を前提とし、意思疎通の難しい利用者からも些細なサインから本人のニーズを汲み取り、ケアに反映できるように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度一日の流れは決まっているが、行事や本人の体調・希望に応じて柔軟に変更するよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>随時訪問美容等を利用し、身だしなみを整えたり、洋服をご自分で選んで頂き、生活の活性化が図れるよう支援します。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>各人の能力や得意・不得意に応じて可能な家事は手伝って頂いていきます。</p>	<p>食材業者より届いた食材を調理し、温かいものは温かく提供している。</p> <p>利用者は職員と一緒に下ごしらえや食器洗いを行い、会話を楽しみながら一緒に食事をしている。イベント時には利用者の好物をイベント食として提供するなど、食生活を楽しんでもらっている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>各人の摂取状態等を見極め、形態の変更を工夫し分量の調整を行い、快適に飲食ができるように支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアを行い、希望者には訪問歯科の診療を導入している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>尿意・便意のサインを逃さないことや場所が分からない方への誘導を行っている。</p>	<p>各居室にトイレがあり、日々の記録からパターンを把握して個別に誘導し、排泄支援をしている。職員は利用者の個々の状態に配慮しながら自立に向けた支援をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事以外にも定期的に水分補給やおからパウダーやヨーグルト・バナナ等を提供し、便器に座ってもらう・体操などを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個浴で対応し、体調や気分が優れない等に応じて調整や代替えを行っている。</p>	<p>入浴準備は毎日行い、週に2~3回は入浴できるよう調整している。希望があれば回数を増やしたり、拒否が見られる利用者には時間をかけて慣れてもらい、声掛けに工夫して気持ちよく入浴できるよう支援している。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>各人の睡眠の状態や体調に合わせて、室温調整その他を行い、快適に休息できるよう支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>何のために服薬をしているのかをしっかりと理解し、適切な支援が行えるよう努めている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や嗜好を考慮し、各自が役割や楽しみをもってホームでの時間を過ごせるよう支援している。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるよう支援している</p>	<p>コロナ禍の為、外出が出来ていない</p>	<p>気候を見ながら、密を避けて、外気浴や近所を散歩する機会を大切にし、利用者が外の刺激や季節を感じられるよう支援をしている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭は概ねホーム側で管理しているが、必要に応じて買い物の援助を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持参され自由に電話できる</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じてもらう為、壁紙は季節の物を利用者と一緒に作成している。写真や作品を掲示を行っている。</p>	<p>リビングや廊下に外出やイベント時の写真や、利用者と職員が一緒に作った季節の貼り絵を飾り、季節を感じたり思い出を見れるようにしている。 陽射しはカーテンで調節し、温湿度計や空調を用い、利用者にも聞きながら体感に合わせた環境整備に努めている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>座席は固定せず、自由に好きな場所</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具等を持参して頂けるご家族に説明し促します。</p>	<p>利用者や家族の希望に合わせて、自宅の間取りに合わせてたり、自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込んでもらったりして、家庭的な第2の住まいとして意識いただけるように支援している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行不安定な方の居室内はクッション材を使用して、自由に動けるように支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない